

# 反改憲運動

## 通信 第8期

2012.6.13

No. 01

1部 200円

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A  
淡路町事務所気付 Tel. & Fax. : 03-3254-5460  
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org  
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>  
年間定期購読料 4,000円 (2012. 6~2013. 5)  
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

## 橋下らの手をかりた野田政権の原発「再稼働」を許すな！

—— 憲法[生存権]をふまえて対決を ——

6月8日、福井県の西川一郎知事の要請に応じて、野田佳彦首相は記者会見し、大飯原発の再稼働を宣言した。

「夏場の電力需要ピークが近づき、結論を出さなければいけない時期がせまりつつある。『国民の生活を守る』。それが国論を二分している問題に対する私の判断の基軸。大飯原発3、4号機を再稼働すべきだというのが私の判断だ。立地自治体の理解を得たところで再稼働の手続を進めたい」。

人びとの生活、そして命(生存)のことを考えたら、原発はすべて廃炉にするしかない。福島原発事故の大惨事が、終わろうもなく続いており、福島など直接の被災者への生活再建のための補償も、まったくまともにせず、平然と放射能地帯で生活させ続けている状況下での政府の「再稼働」宣言である。厚顔無恥とは、こういう人たちのためにのみある言葉である。

首相官邸での抗議の大衆行動は続いている。前日の大結集に続く、6月9日の私たち「再稼働反対全国アクション」の「抗議ウォーク」にも、あいにくの雨にもかかわらず、多くの人びとが参加。怒りの声を、首相官邸を包囲してたたきつけた(「ウォーク」の名称はデモンストレーションの許可されない地帯をゼッケン・横断幕・旗を持ったまま、抗議の声をあげてデモンストレーションを実施するための戦術的名称)。この福島から駆けつけた人びとをとも含めての抗議行動のなかで発せられた怒りの声には、日本の政府は「国民の生活のため」などと主張しながら、電力関連資本(企業)利害のことしかまったく考えていない鉄面皮であることへの絶望的気分が共通していた。事ここに至っても、目先の「利権」が最優先。どんなホラでも吹きまくる。野田は、さらにこう論じている。

「福島を襲った地震・津波が起こっても、事故を防止できる対策と体制は整っている。全電源が失われるような事態でも、炉心損傷に至らない」。

こんなことを断言できる根拠は、本当はどこにもないことは明白。福島原発の「炉心損傷」の現場検証など、具体的にはまったくできていないし、今だって溶解した炉心がどこにど

うなっているかさえ、まったく不明のままなのは、誰でも知っている。野田は、さらにこのように「自白」している。「政府の安全判断の基準は暫定的なもの。新たな(規制)体制が発足した時点で安全規制を見直す」。今回の事故を受けた安全基準など、つくられていないのだ。基準もなく判断し、「規制」する機関もつくられていない。しかし、福島事故に直接責任のある〈彼らの安全宣言に守られて、それは稼働していたのだ〉。この利権にまみれた原子力安全・保安院と原子力安全委員会のインチキなゴールサインで、また再稼働をスタートさせようとしているだけなのだ。

野田政権にとっては再稼働が前提で、後は「安全」のイメージを演出するためのセレモニーが、この間あったにすぎない。徹頭徹尾の〈無責任〉がそこにあるだけなのだ。野田は「夏期限定の稼働」を主張する橋下徹大阪市長等の主張を、「限定」ではないとハネつけている。マスコミはまったくふれないが、反対から一転「期間限定賛成」にひっくりかえった橋下らの態度こそが、野田政権が平然と「再稼働」へふみこむスプリングボードになった事実を忘れてはいけぬ。

この、あらゆる意味で人権感覚の欠落している橋下が「原発再稼働」へ動いたことに驚く必要などないが、あれだけ「いま再稼働などと、誰がいえるの!」と強い言葉を吐いていた、この人気とりで、コロコロ態度を変えるデマゴグの鉄面皮ぶり(政治信念は権力取りだけ)を忘れることも、いまや本当に許されないことである。

私たちは、大飯現地の呼びかけに応える、現地全国結集の闘争を含めて、さらに再稼働ノーの声を拡大しぬかなければならない。その闘いのなかで私たちは、実はあんな殺人産業である原発をつくることなどを許さないと宣言した憲法の下を、戦後生きてきたのだという事実こそ、改めて注目しなおすべきだろう **25条生存権**。人びとの生存を保障すべき政府が私たちの生存をおびやかしているのだ。憲法の理念を活用した政府への反撃を! これが私たちが今期も自覚的に追求すべきテーマである。(天野恵一/事務局)

少し前のことだが、イランの核開発をめぐるギョンター・グラスが新聞に載せた詩が、ヨーロッパや中東で話題になった。核爆弾をもつイスラエルこそが世界平和への脅威であることや、自国ドイツによる対イスラエル軍事協力を批判しており、ネタニヤフ首相はグラスを激しく非難した。ドイツ国内の議論(批判がほとんど)については、『世界』6月号で三島憲一氏が詩の翻訳と合わせて紹介している。▶今年85歳になるグラスの健在ぶり

## 憲法喧嘩

も嬉しかったが、何よりドイツの手厚い対イスラエル軍事協力に気づかせてもらったこと。中距離核弾頭が搭載可能な「ドルフィン級」潜水艦がすでに3隻供与されていて、この詩が書かれたときは4隻目が供与される直前だった。▶長い目で見れば、ヨーロッパでの冷戦終結と軍事政策の転換があったからこそドイツは脱原発に踏み切ったわけだが、中東に緊張の種を撒く兵器ビジネスは続行中。国家って、つくづく身勝手な存在だ。(た)

## 「ポスト5・5」の最初の正念場 大飯原発再稼働をみんなの力で止めよう

大飯原発再稼働へ向けた動きが急迫している。5月5日、泊原発3号機の停止による日本での「稼働原発ゼロ」状況に危機感をつのらせた電力資本、財界、官僚らの意を受けた野田政権は、今夏の「電力危機キャンペーン」を「フル稼働」させ、地元自治体や周辺府県への圧力を強めてきた。

5月30日、鳥取県伯耆町で開かれた「関西広域連合」（2府5県と政令指定都市で構成）に乗り込んだ細野豪志原発担当相は、大飯再稼働を批判していた嘉田滋賀県知事、山田京都府知事、橋下大阪市長らを意識しながら、「4月の閣僚会合で決めた安全基準はあくまで『暫定的』なものであり、原子力規制庁発足後の新しい安全基準で再稼働が適正でない」とされれば原発を止めることもありうる」「経産副大臣を現地に常駐させる」などと必死に説得した。関西広域連合はこれを受けて「暫定的な安全判断であることを前提に、限定的なものとして適切な判断をされるよう強く求める」との声明を出し、夏に向けた大飯再稼働に承認を与えた。同日夜の野田政権関係閣僚会合は、この関西広域連合の首長たちの「声明」を根拠に、野田首相は「関係自治体の一定のご理解が得られつつある」と述べ、「最終的には総理大臣である私の責任で判断する」と「大飯再稼働」への決意を表明した。

嘉田滋賀県知事は「経済界の『夏を乗り切れない』という悲痛な声も斟酌した」と語り、再稼働容認が財界の意向に沿っ

たものであることを明らかにした。原発被災者たちの悲痛な声は「斟酌」の対象ではないのだろうか。「再稼働反対」の急先鋒だった橋下大阪市長にいたっては「うわべや建前ばかりいってしょうがない。事実上の容認です」と無責任な言い方であっさり鉾を収めてしまった。

攻防は続いている。おおい町には再稼働反対のテントが張られて住民との対話を行っており、5月26日におおい町で行われた「もうひとつの住民説明会」には2ヶタの町民をふくむ150人もの人びとが参加し、「福島の人たち」の訴えに耳を傾けた。6月3日には緊急の集会在福井市で開催された。しかしついに6月8日の記者会見で、野田首相は「国民生活を守るため」に大飯原発再稼働を明言し、それは「期間を区切った運転ではない」と釘を刺した。この日、首都圏反原発連合は首相官邸前と関電東京支社前で数千人の抗議行動を行って、怒りをぶつけた。「再稼働反対！全国アクション」は6月9日に、首相官邸ウォークと銘打って官邸をぐるりと包囲する行動を計画しており、さらに経産省前テントひろばは6月17日に福井市で行われる集会にバス5台で駆けつける呼びかけを発している。「ポスト5・5」の最初の正念場だ。「脱原発」の確かなうねりへの逆流を跳ね返し、7・16「代々木公園10万人集会」の成功を。

（国富建治／事務局）

## 震災と放射能汚染後をどう生きるのか 第一回ふくしまフォーラム

地震と大津波は多くの命を奪い、住居や仕事といった生活の基盤を根こそぎ破壊しました。

さらに、福島第一原発の事故によって直後には32万人、現在でも15万人もの福島県民が避難を余儀なくされています。福島第一原発の事故はいまだ進行中であり、放射能汚染は拡大し続けています。福島県民だけが被ばくしたわけではなく、日本全体が放射能で汚染されてしまったと認識すべきでしょう。東日本大震災と福島第一原発の事故が投げかけていることは、私たちが生存の危機にあるということです。それは被災地のみならず、日本全国さらに地球全体が生存の危機にあるということを示しています。

このような状況のもとで、私たちはどのように生きていけばよいのでしょうか。知恵と経験を持ちよりましょう。私たちにはヒロシマ・ナガサキの経験や水俣病との闘い、チェルノブイリ26年の経験という手がかりがあります。

「震災と放射能汚染後をどう生きるのか ふくしまフォーラム」は経験と知恵の出会いの場です。多くの皆さんが本フォーラムに参加するよう呼びかけます。

（ふくしまフォーラム事務局）

日時：2012年6月30日（土）10:30～17:00

7月1日（日）9:30～12:30

会場：いわき市文化センター、いわき市労働福祉会館 資料代：1000円

主催：ふくしまフォーラム実行委員会 tel 0246-68-8925

事務局：NPO法人いわき自立生活センター

6月30日（土）

■10:30～ 全体会（いわき市文化センター）

ゲストスピーカーのお話：「避難者の生活について」発言者／中手聖一さん（前・子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク代表）／「障がい者の視点から見た防災計画」発言者／鈴木絹江さん（障がい者団体代表）／「東京電力への賠償請求について」発言者／海渡雄一さん（前・日弁連事務総長）／「もどる／もどれるのか～相双地区住民のこれから」発言者／双葉郡から避難している方より

■13:30～ 分科会

いわき市文化センター：①検証3・11 障がい者にとっての東日本大震災／②もどる もどれるのか～相双地区住民のこれから いわき市労働福祉会館：③食の安全・免疫力を高めるメニュー／④廃炉と除染作業に従事する労働者の被ばく／⑤東京電力への賠償請求について／⑥いかに被ばくをしないか 内部被ばく、子どもへの影響／⑦避難者の生活について 避難先での県人会結成の動きや支えあいの取り組み

7月1日（日）

■9:00～ 分科会（いわき市労働福祉会館）

①避難者支援～津波と原発事故の避難者支援の現状／②新エネルギー／③健康を守る、しかし医療・介護の人材流失をどうする／④放射能汚染と農業／⑤放射線についての教育をどうする

■11:30～ 全体会

■12:30～ 閉会



# ニコンサロンは重重プロジェクト写真展中止の撤回を!

5月22日、新宿ニコンサロンで6月22日から開催が予定されていた「重重—中国に残された朝鮮人日本軍『慰安婦』ハルモニたちの写真展」の中止の報道が流れた。この写真展は重重プロジェクトの企画の一つで、そのパンフレットには以下のように紹介されている。

「重重プロジェクトは、90年代より『慰安婦』問題をテーマに被害者女性たちを撮り続け、韓国で初めて中国残留朝鮮人日本軍『慰安婦』のハルモニたちをテーマにした写真を発表した写真家安世鴻 (Ahn Sehong) を代表とし、写真という人々の心を動かし感動を与えることのできるアート活動を通して、この問題の解決策を探るひとつのきっかけにしたい! という気持ちで立ち上げられました」。

また、「重重」に込めた思いとして、「ハルモニたちの幾重にも深く刻まれた皺に、70余年の間幾重にも重なり合った憤りがしこりとなり、こびりついた胸の奥を垣間見ました。全ての事が過去から現在に至るまで重なり合って、解くことのできない『恨(ハン)』となり、私たちに迫ってきました」と記されている。

この重重プロジェクトの写真展を知ったのは、中止報道のほんの少し前のことだった。このプロジェクトについての予備知識も皆無だった。しかし、このパンフレットを読みながら、行ってみたいと思っていたのだ。それが突然の中止。ニコン広報課は「写真展の開催に複数の抗議があったことは事

実だが、中止は諸般の事情を総合的に判断し決めた」と、メディアの取材に応えている。主催者からの問い合わせにも「諸般の事情」を繰り返して、「なにとぞ、ご理解賜りますようお願い申し上げます」と応えている。

「諸般の事情」のおおよそは誰にも想像がつかず、見当違いな想像でもないはずだ。だがニコンはそれを明らかにせず、了解せよという。了解などできないのだ。

さまざまなテーマの写真展を開催してきた世界のニコン、カメラと写真界では大きな力を持つだろうニコンが、その写真を介した表現の自由、思想・信条の自由、見て学ぶ自由を、明示できないような理由で放棄したのだ。右翼の恫喝に屈したとは言い難いのだろうが、これはそういう問題であり、またそのように知られ、中止撤回を求める声も上がっている。

この間、天皇制や日本の植民地主義の問題、反戦等々を掲げた行動には、右翼による暴力的な妨害も多く、それを理由とした会場の使用拒否も頻発している。思想・信条や表現の自由を奪われた社会がまともでいられるはずがない。そのことは歴史が教えてくれている。今回のニコンサロンの対応は、この歴史そのものを抹殺しようとする動きに棹さすこととなるだろう。

安世鴻さんの「理由を説明できない写真展中止決定事項を受理しません」に支持を! 新宿ニコンサロンは中止の撤回を!  
(桜井大子/反天連)

## 報告▶市民と政府の意見交換会～TPPを考えよう～ ——TPP交渉の実態と緊急市民アクション

5月22日、文京シビックセンター小ホールにて、「市民と政府の意見交換会～TPPを考えよう～」が開かれた。市民を代表する有識者と政府のTPP協議担当者たちが一堂に会し、TPP交渉をめぐる状況やその内容について「対話」の時間をもった。250名ほどの市民が参加し、彼らのやりとりを耳を傾けた。

第一部では鈴木宣弘氏(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)、安田節子氏(食政策センター・ビジョン21)、色平哲郎氏(JA長野厚生連佐久総合病院・医師)の3名がそれぞれTPPを解説した。鈴木宣弘氏によると、TPP交渉の現状は事前「協議」と言われているが、実際には実質的な事前「交渉」で、米国は自国議会に日本の参加を納得させるために、水面下で自動車、郵政、BSEなどにかかわる「密約」をとりつけようとしていると話した。安田節子氏は「TPPはこれまでの貿易協定とは異なる最悪のFTAで、紛争解決(ISD条項)にしても、投資や金融にしても、アメリカのルールをスタンダードとして押し付けられる」と非常に強い危機感を示した。ルールのアメリカ化については、医師である色平哲郎氏からも「医療が市場化されれば日本の皆保険制度が崩されていくことになる」との指摘があった。

政府側からは内閣府大臣政務官をはじめ、外務、経産、農水各省から総勢8名が出席した。彼らからのTPP概略説明に続いて、会場参加者、有識者と政府側との「対話」の場が

くられた。

しかし実際には十分な意見交換は行われなかった。市民側からの質問が切実で具体的なものであったにもかかわらず、政府側から寄せられる回答は「交渉のテキストは入手していないので内容はわからない」「交渉にまだ参加していないので、実際にどういったことを求められるかはわからない」「国益を守るような交渉をしたい」といった内容の乏しいものであった。私たちが求めているのはそんな「官僚答弁」ではなく、「5割を目指しているはずの食料自給率はどうなるか」「遺伝子組換え食品表示の義務付けはどうなるのか」といった不安や疑問への具体的な回答だったのだが。市民側がそろって批判した、政府の市民に対する「情報隠し」が証明されたようなやりとりに終わってしまった。

6月18日～19日、野田首相はメキシコで開催されるG20に参加する。その場を利用して、首相が協議への参加表明をしてしまう可能性は、否定できない。そんな情勢の中、市民団体、NGO・NPO、生協、ユニオンなど40団体からなる「STOP! 市民アクション」が、「6月緊急アクション」を展開しながら、有楽町での街宣行動(6月18日)や、ニュージーランド・オークランド大学教授のジーン・ケルシーさんを招いてのシンポジウム(21日)なども企画している。ぜひとも、多くの人たちの参加を呼びかけたい。

(海棠ひろ/ピープルズ・プラン研究所)

## 東京・練馬からの報告▶自衛隊の戦争訓練に地域から反対の運動を

首都圏の自衛隊が派手な動きをしている。

朝鮮民主主義人民共和国のロケット発射を前に、防衛省・自衛隊は大仰に「不安と恐怖」を煽り、イージス艦を東シナ海、地対空誘導弾パトリオット(PAC-3)を沖縄本島、宮古、石垣に配備した。その際、首都圏でもPAC-3が配備された。4月7日に、市ヶ谷の防衛省敷地内、陸上自衛隊朝霞駐屯地、同習志野演習場にも配備されたのだ。その時、朝霞駐屯地に配備された空自PAC-3部隊を警備したのは、第1師団に属する第32普通科連隊である。PAC-3配備は、陸海空統合の全国規模の動的展開だったのである。

PAC-3が朝霞などに展開された翌日の4月8日には、練馬駐屯地で第1師団創立50周年・練馬駐屯地創立61周年記念行事。例年通り石原都知事がやってきて自衛隊を激励。戦車や火砲の空砲射撃は耳もつんざくほどのうるささ。「震災救援」で親自衛隊感情が高まっていると踏んでのことか、やりたい放題だ。

4月30日には、東京スカイツリーを会場に、東京都・墨田区主催の「テロ対策訓練」が行われた。スカイツリーで化学物質を散布した「テロリスト」が爆破物を所持して逃走という荒唐無稽な想定の下、陸自も含む1200人という大規模な訓練が行われた。訓練を監視した荒川・墨田・山谷&足立実行委員会(4地区実)によれば、その中身たるや、見るからに怪しいテロリスト役が警察犬に追われ逮捕されるという小芝

居だったそうだ。

もう一つ、とんでもないことが行われようとしている。6月12日に行われるレンジャー訓練だ。3月下旬から9週間にわたる殺傷・破壊訓練の後期訓練、4泊5日の不眠不休の訓練の最後に、ヘリで荒川河川敷に降りたレンジャー部隊が、同日8時半から正午、板橋区・練馬区の市街地を練馬駐屯地に向けフル装備で行進するというのだ。市街地訓練はなんと40年ぶり。区への通告すらしていないと言う。調子に乗り過ぎだ。

「基地も原発もいらない！今こそ反戦の声を！北部集会実行委員会」は、4月8日に駐屯地祭抗議情宣、5月18日に集会、6月3日に練馬駐屯地に対するデモを行った。湯浅一郎さんを講師とした18日の集会には35名が参加。6月3日のデモには25名が参加した。集会およびデモでは、福島への被災地支援に取り組む練馬区職労のメンバーから問題提起、自衛隊横田基地稼働に反対する三多摩の取り組みや4地区実のアピールなどを受け、多様な活動の交流も実現できた。7月1日にはオスプレイ配備反対などを掲げた板橋デモ、7月7日には練馬での「沖縄戦を考える集い」も準備されている。こうしたささやかな取り組みを、おおきなうねりにしていきたい。

(池田五律／戦争に協力しない！させない！練馬アクション)

### ◆憲法を読む◆『「デモ」とは何か——変貌する直接民主主義』

五野井郁夫 著／NHK ブックス 1190／950円＋税

「デモ」と謳った書籍は福富節男さんの『デモと自由と好奇心』以外に私は寡聞にして知らないが、日本じゅうが「反原発デモ」にゆれる今、「デモ」の本が出版されたことをうれしく思って手に取った。

福富さんは「60年安保デモ」から何十年もの間、考えたり工夫したり歩いたりするだけではなく、デモ列の頭からシッポまでを何往復もするという参加で知られている。この本で「日本デモ史」の始めにあたるころからの生き証人だ。五野井さんは1979年生まれで、昨秋からのニューヨーク「オキュパイ・ウォールストリート占拠デモ」がどうも初体験という方ようだ。その後、フクシマ事故で沸き上がった人びとの怒りが、いくつものデモになり、五野井さんも参加しつつ、「デモ」という直接行動の歴史、意味、実態解明に向かわれたのだろう。始めに紹介される「オキュパイ…デモ」のレポートは単なる聞き伝えではないのでとても興味深い。

「60年安保デモ」以前のメーデーやゼネストなどでもたれたデモの記録も辿られているが、じつにさまざまの「種類」の人たちが参加した、全国的規模「意思表示」のデモとして、後にも先にも「60年安保デモ」を超えるものはなかった。あれほどの情熱をかけて行い、血まで流れたのに、何の甲斐もなく安保が承認されてしまったことに、多くの人たちは強い挫折感を味わった。

しかし、規模は小さくなったけれどデモは続いた。

「1960年代から1970年代を分水嶺として『モーレツからビューティフルへ』と時代が移り変わっていったすえ、1980年代には『院外』の政治たる直接民主主義の政治表現は死に絶えたかに見えた。しかし実際には、人びとの政治表現は地下水脈のように受け継がれていたし、日常の『生活のなかの政治』として暮らしのなかに定着しつつあったのではないか……」との記述に、強く頷きたい。ここまですくもいくつものデモを歩いてきた少数の者たちが、この「反原発デモ」の核となって大きな役を果たしているのではないかと、思われてならないからだ。

私たちが積み上げてきた「デモ」は、国家警察の警備との闘いの連続であったけれど、彼らが力を入れれば入れるほど、デモには恐るべき力があることがわかるというものだ。デモが成立するには核になる存在があるにはあるが、それはたいしたものではない。一人一人の胸からあふれる強い拒否の意思が中心なのだ。表現形式の古さや新しさでもない。この本でしばしば登場する丸山眞男先生は、デモに関しては実に小さい点にしか過ぎない。

それでも、本書は貴重な出版と思う。「反原発」運動のなかから、署名運動、座り込み運動、ハンスト、テントによるオキュパイ行為等々、いくつもの非暴力の直接行動がでてきた。ここに触れられているこれらの事実が、「60年安保デモ」に継ぐ歴史として残っていくと思う。(梶川涼子／事務局)



# 反改憲ニュースクリップ

2012年5月28日～6月9日

## 野田首相が原発再稼働表明 新防衛大臣に森本敏が就任

【5月28日】〈橋下の憲法観〉橋下徹大阪市長が、現憲法について「第二次世界大戦後、日本が主権を回復するまでの間に作られた特殊な経緯を踏まえ、自分たちの手で作り直してみる過程が必要」「押しつけ憲法とか憲法無効とか、そういう議論が起きる憲法を持っていること自体が恥」と発言。

【5月30日】〈参院憲法審〉参院憲法審査会(小坂憲次会長)が東日本大震災と憲法をテーマに自由討議を行った。前川清成議員(民主)の「東日本大震災にこじつけて火事場泥棒的に憲法改正をもくろんでいる」との発言に自民党などが反発。〈原発再稼働〉関西広域広域連合が、関西電力大飯原発3、4号機の再稼働について「限定的なものとして適切に判断するよう(政府に)強く求める」との声明を発表し、事実上再稼働を容認した。〈原発政策〉九州電力川内原発(鹿児島県薩摩川内市)全2基の運転差し止めを求めて、1114人の原告が国と九電を相手取り鹿児島地裁に提訴した。

【5月31日】〈衆院憲法審〉衆院憲法審査会が戦争放棄条項をテーマとして論点整理を行った。自民党は5月に公表した憲法改正草案で自衛権の保持を明記したと説明し「これには個別的、集団的自衛権も含まれている」と強調した。また、自衛隊は「国防軍」と位置づけるべきだと述べた。民主党は平和主義を尊重し、「制約された自衛権」を憲法上で明確にする考えを示したが、自衛隊の憲法上の位置付けや集団的自衛権に対する認識などについては言及しなかった。公明党は「改憲も加憲も必要ない」と主張する一方、「主権国家に固有の自衛権までも否定する趣旨ではなく、自衛のための必要最小限の実力は認められる」とした。みんなの党は9条改正の是非などを国民投票で問う考えを表明した。社民、共産両党は改憲に反対した。〈尖閣〉自民党が政調全体会議で提示した次期衆院選公約原案の改定案で、尖閣諸島を国有化し、島の有人化と海の有効活用を図ると新たに明記した。

【6月1日】〈原発政策〉原子力委員会が、5日に予定された「新大綱策定会議」の次回会合を中止すると発表。原子力委が原発推進側だけを集め秘密会議を開いていた問題が発覚し、策定会議委員から事実関係の検証や体制の見直しを要求されているが、対策作りが間に合わないため。

【6月4日】〈新防衛相〉野田内閣は改造人事を行い、民間から初めて森本敏・拓殖大大学院教授を防衛相に起用した。森本は、集団的自衛権行使の容認や辺野古新基地建設の支持など、親米タカ派の論客として知られる。ただし、就任記者会見では、「政府が集団的自衛権(の行使)を認めていないこと

は十二分に理解している。任期中、防衛相として集団的自衛権の考え方を変更する考えは毛頭ない」と述べた。〈原発再稼働〉細野豪志・原発事故担当相が福井を訪問し、西川一誠知事に再稼働への協力を求めた。知事は、日本経済の安定的発展に原発が引き続き重要な電源であることを政府が認めるよう迫った。

【6月5日】〈新防衛相〉野田佳彦首相が森本敏防衛相と会談し「野田政権では集団的自衛権の(行使を禁じる)憲法解釈は変えない」との考えを伝える。〈防衛有識者懇〉森本敏防衛相が防衛省内で「防衛問題を語る有識者懇談会」を初開催。同懇談会は前任者の田中直紀大臣が企画し、森本が座長に就く予定だったが、大臣に就任することになったため、西原正(平和・安全保障研究所理事長)を座長とした。他のメンバーに、五百旗頭真(前防衛大学学校長)ら7人。〈原発再稼働〉民主党議員が、大飯原発の再稼働を慎重に判断するよう野田首相に求める党所属議員の署名117人分を斎藤勤官房副長官に手渡した。

【6月6日】〈参院憲法審〉参院憲法審査会が民主、自民、公明、みんなの4党による幹事懇談会を開き、今後の審査テーマを参院の存在意義にかかわる「二院制」と各党の関心が高い「人権」に絞ることを決めた。近く他党に提案する。〈原発政策〉原子力安全・保安院は、7月に運転開始から40年を迎える関西電力美浜原発2号機について、運転を10年間延長することを了承。

【6月7日】〈オスプレイ〉民主党沖縄県連が、米海兵隊の垂直離着陸機MV-22「オスプレイ」の米軍普天間飛行場への配備をめぐり、森本敏防衛相の辞任を求める緊急声明を発表。森本が5日の記者会見で、オスプレイが4月にモロッコで墜落した事故について、「配備前にすべての事故調査結果が(米側から)提供されるのが望ましいが、必ずしもそうならないことはあり得る」と述べたことに反発したため。〈尖閣〉丹羽宇一郎駐中国大使が、東京都の尖閣諸島諸島購入計画について「実行されれば日中関係に重大な危機をもたらすことになる」と英紙のインタビューで述べた。

【6月8日】〈原発再稼働〉野田佳彦首相が大飯原発3、4号機について、「原発は重要な電源だ。国民生活を守るために再起動すべきだというのが私の判断だ」と初めて明言。橋下大阪市長らが主張する夏場限定の再稼働は否定。福島原発事故に関する国会調査委員会の黒川清委員長は「なぜ国会事故調の報告を待ってからやらないのか」と批判した。同日、官邸前では4000人が集まり抗議行動を行う。

【6月9日】〈新防衛相〉森本敏防衛相が9日付の毎日新聞のインタビューで「米軍普天間飛行場の移設問題は、名護市辺野古に代替施設を建設する案が唯一の有効策」と述べる。また、同日付の産経新聞のインタビューでは、沖縄の海兵隊について、「司令部、戦闘部隊、後方部隊、飛行部隊を全体としてパッケージで運用することが望ましい。その他の地域にそっくりそのままっていくことは現実政治の中で難しい」と答えた。

事務局から～

8期がスタートしました。今期もよろしくお願ひします！ 事務所にはスタッフが常駐していません。ご連絡の際にはファクシミリ、お葉書が確実です。特に転居の際にはご連絡ください。よろしくお願ひします。

# 12 私も一言 153

田中聡史 (都立板橋特別支援学校教員)

私は、今年度の都立板橋特別支援学校での入学式で、「君が代」を起立斉唱せよとの職務命令にもかかわらず、不起立し、戒告処分と同時に教職員研修センターでの再発防止研修を命じられた。

今年度の再発防止研修は、「地方公務員法（服務規律）について」という講義に、「教育における国旗掲揚及び国歌斉唱の意義と教育者としての責務について」という講義が追加され、講義が終わるごとに「振り返りシート」という、設問と回答欄が刷られているプリントに記入させられる。

研修の最後に、別室に移って、教育経営課長が私の回答に

ついてコメントや解説を付けるのだが、以下はそのときの課長の発言を私がメモしたものである。

「『法令や命令に伴って、公務員としての義務が定められることを踏まえ、今後どのように職務を遂行していこうと思うか』という設問に、田中先生は『一部の奉仕者ではなく全体の奉仕者として職務を遂行したい』とお書きだが、『教育公務員として法令や上司の職務命令に従って職務を行っていく』と確認していただきたかった。」「『教育公務員は学習指導要領に基づき、教育課程の適正な実施に向けて校長が発出した命令に従い教育活動を行う責務がある。このことを踏まえ教育公務員としてどのように職務を遂行していこうと思うか』という設問に、『憲法ならびに諸々の法令を理解し、職務を遂行したい』とお書きだが、校長が教育課程の適正な実施のために職務命令を発出しているのであるから、それを守るべきであることを確認したかった。」

命令が合憲合法かを判断するのは、教育委員会自身か、もしくは裁判所であり、現場の公務員はひたすら命令に従うべき、という恐るべき論理なのである。

## 集会・行動情報 6/16 ~ 7/1

▶ 6/16 (土) がれき問題討論集会 がれき問題の「今」——根拠のない「絆」キャンペーン 「放射能を拡散しない」と「被ばく最小化」が大原則！◆資料代500円

◆発言者：青木泰（環境ジャーナリスト）◆開場17:45、開始18:15◆文京区民センター3A（都営地下鉄春日駅、東京メトロ後楽園駅下車）◆福島原発事故緊急会議

■第70回市民憲法講座「アメリカの世界戦略の転換と自衛隊」◆参加費800円◆お話し：前田哲男◆18:30◆文京区民センター3C（都営地下鉄春日駅、東京メトロ後楽園駅下車）◆許すな！憲法改悪・市民連絡会

▶ 6/17 (日) 脱原発東電株主総会◆13:30開場◆発言予定：河合弘之、木村結、堀江鉄雄、山崎久隆、東井怜、阪上武、竹村英明ほか◆資料代：500円◆千駄ヶ谷区民館（JR山手線原宿駅下車）◆脱原発・東電株主運動、東電株主代表訴訟、東京電力と共に脱原発をめざす会

■いのちが大事 今なぜ再稼働？ 福井でつながろう◆12:00◆福井市中央公園◆ふくいでつながろう実行委員会

■第5回大間原発反対現地集会・デモ◆11:30集会、12:30デモ◆大間原発に反対する地主の会所有地◆現地集会実行委員会（呼びかけ：核燃料廃棄物搬入阻止実行委員会、ストップ大間原発道南の会 連絡先：080-6041-5089 中道）

■第5回ゆんたく高江◆入場無料◆ライブ：和久寿焼、寿、ジンタラムータ、知念良吉、スワロッカーズ パフォーマンス：東京エイサーシンカー、トーク：伊佐真次、清水暁◆12:00オープン、13:00スタート◆上野公園野外ステージ（JR・東京メトロ上野駅、京成線京成上野駅、都営地下鉄大江戸線上野御徒町駅下車）◆第5回ゆんたく高江実行委員会

▶ 6/18 (月) 『プロメテウスの罠』取材記者が語る“原発事故の真実”◆お話し：木村英昭◆18:00開場◆タワ

ーホール船堀小ホール（都営地下鉄新宿線船堀駅下車）◆さようなら原発・江戸川連絡会

▶ 6/22 (金) 大地は揺れても笑っていこう——モンダンヨンピル・チャリティーコンサート◆協力券1000円、当日券1500◆クオン・ヘヒョ、イ・ジサン、キム・ミョンジュン、ウリナラバンド歌手グルーほか◆18:00開場◆なかのZERO大ホール（JR中野駅南口下車）◆同実行委員会（モンダンヨンピル、フォーラム平和・人権・環境、日朝学術交流協会、「高校無償化」からの朝鮮学校排除に反対する連絡会）

■2012ヤスクニ・キャンドル行動連続学習会第3回「ヤスクニ合祀取り消し裁判の現状と課題」◆500円◆お話し：内田雅敏（弁護士）◆18:30◆豊島区民センター（池袋駅東口下車）2012年「平和の灯を！ヤスクニの闇へ」キャンドル行動実行委員会

■沖縄意見広告報告集会・関西集会◆資料代：500円◆お話し：山城博治、服部良一、武健一◆18:00◆協同会館アソシエ5Fホール（JR新大阪駅下車）◆沖縄意見広告運動

▶ 6/23 (土) 想像しよう「沖縄のリアリティ」——沖縄にオスプレイはいらない◆参加費500円◆映画「フクギの雫」、トーク：宜野座映子◆16:00◆YMCAアジア青少年センター9F国際ホール（JR水道橋駅下車）◆JUCON（沖縄のための日米市民ネットワーク）

▶ 6/30 (土) オスプレイは沖縄にも横田にもいらない6・30行動◆14:00開始◆福生公園（JR青梅線牛浜駅北口下車）◆オスプレイは沖縄にも横田にもいらない6・30行動（連絡先：立川自衛隊監視テント村）

▶ 6/30 (土) ~ 7/1 (日) 第一回ふくしまフォーラム 震災と放射能汚染後をどう生きるのか◆資料代1000円◆詳細は本文（P2ページ）参照◆同実行委員会（事務局：NPO法人いわき自立生活センター）